

## 平成22年度 茨城県立つくば工科高等学校自己評価表

目指す学校像	「豊かな人間性と科学する心をそだてる」を教育目標に、心身共に健全で豊かな人間性を持ち、産業社会のどのような変化にも柔軟に対応できる人材の育成と地域・民主社会に貢献できる人材の育成をとおして、地域に密着した開かれた専門高校を目指す。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>心優しくあいさつのできる生徒が多く、来校者からの評判も良いが、基本的な生活習慣の確立や道徳的実践力の育成等、厳格な生徒指導が必要である。</p> <p>人と人とのつながりの希薄化や学ぶ意欲の喪失等の問題解決を図るため、授業で一人残らず学びに参加させることを目標に「学びの共同体」を推進する。</p> <p>生徒達は概ね希望に沿った進路を決定しているが、指導の連携を図り、チャレンジする意欲を喚起させ、さらに上位の目標を達成させたい。</p> <p>地域行事への参加や出前授業を積極的に行っているが、保護者や地域との連携強化が課題である。</p> <p>エコスクールとしての取組も4年目を迎え、更に環境活動の徹底を図る。</p> <p>地域の要望や社会の変化に対応した「つくば工科」の将来像を検討する。</p>	生徒理解に努める 生徒指導の推進	①基本的な生活習慣の確立 (清掃指導, 授業時の約束, マナー, 頭髪服装, 遅刻指導) ②道徳教育の充実 ③教育相談等の充実 ④生徒が主役になる特別活動の充実	B
	個々の生徒に対応した 学習指導	⑤生徒が主体の授業である「学びの共同体」の推進 ⑥授業時間の確保 ⑦基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得 ⑧専門教育の充実 ⑨職業資格の取得の推進(工業関係の資格取得促進)	A
	個々の生徒に対応した 進路指導	⑩生徒の自己理解を生かし勤労観・職業観を育てる進路指導の充実 ⑪学校全体のキャリア教育の充実と計画的な実施 ⑫インターンシップ等の実施や企業・進学先の研究 ⑬個々の生徒の進路希望の実現	A
	学校と保護者や 地域社会との連携の強化	⑭学校の説明責任を果たす積極的な情報発信 ⑮保護者とのコミュニケーションと共通理解 ⑯地域社会との積極的な連携と本校の広報活動の充実	B
	学校全体での エコスクールへの取組	⑰生徒の環境対策技術の習得 ⑱エコアクション21に準拠した環境活動の実践	B
	職員による本校の 将来構想の検討	⑲将来の目指す学校像の検討 ⑳就職に役立つ専門性と国公立大学進学にも対応できる学校の検討	B

※評価基準 A:よくできた B:普通 C:やや不足 D:不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (国語科)	基本的な漢字の読み書きの力を習得する	ワーク学習を充実させ、漢字検定の合格者を増やす。 ⑦	B	漢字の読み書き、語彙力等の基礎学力の定着を目指す。  文章や発表を通して、自己表現力を身につけさせる。
		毎時の「NIENIE蟬」から、新聞に出てくる漢字を習得する。 ⑦	A	
	文章の内容を理解する能力を養う	難解な語句や言葉の意味を知り、語彙力を向上させる。 ⑦	B	
		文章を読んで多くの考えに触れ、自己の思考との比較をさせる。 ⑤⑦	B	
	文章表現能力を養う	各種文章の書き方を知り、目的に合わせて文章で表現する。 ⑦	B	
		俳句を詠み、「おーいお茶新俳句大賞」に多くの作品を投稿する。 ⑦	A	
	時事問題からの考察力を養う	毎時間、新聞記事・コラムから時事問題を考察する。 ⑤⑦	A	
		他者の視点や基準を知り、それらを自己基準に反映させる。 ⑦	B	
教科指導 (地歴・公民科)	学習への動機付けと基礎学力の向上	チャイムでの授業の開始、教科書類の準備・服装などをきちんとさせるよう徹底する。 ①⑥⑩	B	学びの共同体の試みは、適切な課題の作成など難しい点も多いが、生徒の学ぶ意欲を高めるよう、さらに改善し取り組んでいく。 取り組みやすい課題を心掛け、生徒の学習意欲を引き出すように努力する。 変化が激しく難解な社会情勢を、テレビ・ビデオなどを活用してわかりやすく学んでいきたい。特に、職業教育・人生設計について生徒が自発的に取り組む意識を育てていきたい。 大学の一般試験対策、不振者の指導など、個々の生徒に応じた指導はさらに充実させていきたい。
		基礎的事項の定着を重視し、基本事項を繰り返して説明したり、問いかけを行うなど指導法を工夫・改善する。 ⑤⑦	A	
		授業態度・提出物などの状況を評価に反映し、授業に取り組む態度の重要性を生徒たちに自覚させる。 ①⑤⑦⑩	A	
		学習内容を、生徒たちが自身の実生活と関連してとらえられるように工夫する。 ⑦⑩⑪⑫⑬	B	
	社会人になるにあたり公民としての資質を養う	職業意識を高め、生活設計の大切さに気付かせ、常識ある社会人としての規範意識・道徳心を喚起する。 ⑩⑪⑫⑬	A	
		時事問題・マナー・ビジネスの常識など、社会人として必要な、一般常識の定着を目指す。 ⑩⑪⑫⑬	B	
	わかる授業の工夫と展開	内容を精選して、わかりやすい授業の実現に努め、生徒の主体的な取組を喚起できるような課題を工夫する。 ⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑬	A	
		個々の生徒の学習状況を把握し、意欲のない生徒には適切な指導を行い及第するように指導する。 ①⑦⑬	B	

※評価基準 A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導 (数学科)	基礎的な計算力の向上	教科書だけでなく問題集、プリント等を活用して数学の基本的な計算能力を身に付けさせる。 ⑦	A	B	以前にも増して生徒の数学的な基礎学力の差が大きく、どのレベルに授業を合わせるかが課題である。 数学が嫌いな生徒が多い中で生徒の意欲や基本的な計算能力をどう高めるか。 実用数学技能検定を受験する生徒を増やすための働きかけをどのようにするか。
	理解度の低い生徒に対する指導の充実	理解度の低い生徒に対して放課後、長期休業中などを使い基本的な問題を繰り返し練習させ最低限の数学の計算力を付けさせる。 ⑦	B		
	実用数学技能検定の合格者の増加	実用数学技能検定を受験する生徒に対して事前に課外等の指導を行い合格者の増加を図る。 ⑦⑨	B		
教科指導 (理科)	授業の充実	板書やプリントの内容等を工夫するとともに、問いかけを充実させ、生徒に考える場面を提供する。 ⑤⑦	A	A	度重なる指導にも関わらず、教材等を用意しない者、ノートを取らない者、プリント課題を提出しない者が少なからずいた。またそのような者は成績不振である事が多かった。 彼らの取組を改善することが、学校全体の生徒の学力やより良く生きる力の向上につながるが、家庭環境や性格など根本的な問題が関わるので、教科のみでなく、学年、生活指導、教育相談とのより一層緊密な連携が課題である。
		授業中にノートを使用して過去の内容を確認させることで、書くノートから書いて見るノートの使い方を定着させる。 ⑦	B		
		授業毎にプリントを用意し、生徒自身が授業の要点を把握できるようにする。 ⑦	A		
		資料集を用いて生徒が自ら調べて学習できるようにする。 ⑤⑦	A		
	自然現象に対する意識の向上	実験や観察、映像・資料等を通して、日常生活における現象を科学的に捉えられるように説明する。 ⑤⑦	A		
	授業態度等の向上	毎時間、生徒の準備状況を確認する。 ①	A		
ノート等をきちんと提出させ、生徒の学習状況を把握する。 ①⑦		B			
教科指導 (保健 体育科)	基礎体力の向上	体ほぐしの運動を実施し、自分の体力について気付かせる。 ⑦	B	B	集団行動について、さらに指導をしていく必要がある。
	運動技能の向上	体力を高める運動を実践する。 ⑤⑦	B		
		各単元の基本的な運動技能について指導する。 ⑦	B		
	集団行動の確立	ゲームを通じ、身に付けた運動技能を向上させる。 ⑤⑦	A		
		集合、整列、方向転換、隊列変化等の集団行動を通じ、集団の中の個としての自覚を促す。 ①	B		
健康問題の解決	号令、挨拶、言葉遣い等、基本的な礼儀を指導し、マナーを身に付けさせる。 ①	B			
教科指導 (芸術)	生徒の個人実技レベルに沿った指導	保健の授業で様々な健康問題を取り上げ、その解決法を考えさせる。 ⑦	B	B	本年度同様、生徒の実態に即した課題を設定し、実施したい。
		生徒の実態・興味・関心に沿った指導をする。 ⑤⑥⑦	B		
	基礎・基本および言語活動の充実	課題制作期間を無理なく設定する。 ⑥⑦	A		
		基礎・基本を踏まえた実技指導を行う。 ⑤⑥⑦	B		
	鑑賞教育をより充実させる。 ⑦	B			

※評価基準 A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導 (英語科)	基礎学力の獲得・向上・定着を図る	各学年・科目で基本的な語彙数を増やし、基礎力確認テストを、必要に応じ、実施する。 ⑤⑦	A	B	中学校で既習の学習事項が理解できない生徒もいるため、前エンドに引き続き基礎力を付ける取組をする。コミュニケーション能力を身につける。
	国際的な事柄に関心を持つ態度を育てる	ALTとのteam teaching等を通して、あらゆる人々とのコミュニケーションを積極的に図れる力を養う。 ④⑤⑧	B		
	国際人としての基礎を造る	外国の文化に触れさせ、生徒の視野を広げる。 ⑦⑧	B		
	英語検定に取り組む生徒を増やす	英検受験者数が増えるよう、授業やHRを通して啓発し、英検対策課外を行う。3級・準2級の合格者を増やす。 ⑦⑬	C		
教科指導 (家庭科)	自分の生活を見直す力をつける	自分自身のライフスタイルを、生活時間、金銭管理、健康管理、環境管理などの面から見直し、実践していく。 ⑥⑦	B	B	より日常に即した事柄を取り上げて、実験実習を増やし、興味関心をもたせる。
	生活者としての生きる力をつける	衣・食・住の分野にわたり、安全で健康に生活していくための知識や技術について実験・実習を交えながら学習する。 ⑥⑦	B		
		様々な悪質情報について学び、被害に遭わないための知識、被害に遭遇したときの対処法、加害者にならないための心構えを身につける。 ⑤⑥⑦	B		
	資源・環境と関わる力をつける	循環型社会にするために必要な事項を学習し、調べ学習をしながら各自「環境新聞」を作成する。 ⑤⑥⑦⑱	B		
教科指導 (電子機械科)	生徒理解に努める生徒指導の推進	きちんとした服装で実習の展開をさせるために点呼時に服装等の点検を行い、指導する。 ①②	A	A	生徒理解に努める生徒指導の推進 基礎学力の向上を図る。安全で健康に生活していくための知識や技術について実験・実習を交えながら学習する。様々な悪質情報について学び、被害に遭わないための知識、被害に遭遇したときの対処法、加害者にならないための心構えを身につける。循環型社会にするために必要な事項を学習し、調べ学習をしながら各自「環境新聞」を作成する。 きちんとした服装で実習の展開をさせるために点呼時に服装等の点検を行い、指導する。作業等の安全の為に心構えを教える。実習後の実習室の清掃と整理整頓を徹底する。レポートや課題等の提出期限を守らせるために早期の指導をしていく。 ものづくりの基礎・基本の知識と技能の修得を学ぶ。第2種電気工事士の受験指導において、第2学年の各専門教科との連携をはかりながら、授業中においても指導を行い、また、放課後の課外指導等も行なって合格率の向上を図る。計算技術検定および情報技術検定の受験指導において、関連する教科や課外指導を通して、合格率の向上を図る。 企業見学を通して、勤労観や職業観を育てる。 地域社会との連携を通して、本校電子機械科を知ってもらおう努力をする。 実習で出るくずの分別を教え、廃棄物の処理を適切に行う。 学科に必要な教科の選定と内容を検討する。就職や進学に必要な教科内容を検討する。
		作業等の安全の為に心構えを教える。 ②	A		
		実習後の実習室の清掃と整理整頓を徹底する。 ①②	B		
		レポートや課題等の提出期限を守らせるために早期の指導をしていく。 ①	B		
	個々の生徒に対応した学習指導	ものづくりの基礎・基本の知識と技能の修得を学ぶ。 ⑤⑧	A		
		第2種電気工事士の受験指導において、第2学年の各専門教科との連携をはかりながら、授業中においても指導を行い、また、放課後の課外指導等も行なって合格率の向上を図る。 ⑧⑨	A		
		計算技術検定および情報技術検定の受験指導において、関連する教科や課外指導を通して、合格率の向上を図る。 ⑨	B		
	個々の生徒に対応した進路指導	企業見学を通して、勤労観や職業観を育てる。 ⑩⑪⑫⑬	A		
	学校と保護者や地域社会との連携の強化	地域社会との連携を通して、本校電子機械科を知ってもらおう努力をする。 ⑭⑮⑯	A		
	学校全体でのエコスクールへの取組	実習で出るくずの分別を教え、廃棄物の処理を適切に行う。 ⑰⑱	A		
職員による本校の将来構想の検討	学科に必要な教科の選定と内容を検討する。 ⑬	B			
	就職や進学に必要な教科内容を検討する。 ⑬⑱	B			

※評価基準 A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導 (情報技術科)	資格試験の合格率向上	(工事担任者試験)(第2種電気工事士) 各専門科目との関連授業、課外指導で連携をとりながら、全国合格率の平均以上の合格率を目指す。⑨	B	B 資格試験においては、指導時間の確保を含め、全国合格率の平均以上の合格率を目指す。  実習前の指導、特に安全点検の継続性の維持に努める。  清掃、リサイクルの意識、実践の向上を図る。  中学数学の小プリントの継続を図る。
		(情報技術検定・ワープロ実務検定等) 関連授業、課外指導を通して上位級(1・2級)の合格を目指す。⑨	B	
	各種競技会への挑戦	高文連・高教研、その他の大会・競技会に積極的に参加する。④	A	
	作業安全教育の推進	規範意識・マナーを身につけさせ、きちんとした服装等で実習が展開できるよう指導し、作業安全のための姿勢をつくる。①	A	
		実習室等の整理・整頓を徹底する。①	B	
	E A - 2 1 活動の推進	廃材等分別収集のための整備をし、生徒への徹底強化を図る。環境問題についての授業を取り入れる。⑱	B	
個々の生徒に対応した学習指導計画の充実を図る	各科目において、基礎学力定着の充実を図る。⑤⑦⑧ 生徒が関心を持ち、自ら取り組めるよう教材研究を行い、わかる授業のための充実を図る。	A		
教科指導 (建築デザイン科)	基本的生活習慣の確立を図る	実習開始前の生徒の服装・頭髪指導・集合時間等を徹底させる事により、授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。①	B	A 実習開始前に整理させ、点呼することにより、基本的生活習慣の確立を図ることができるので今後も継続する必要がある。 建設業協会主催の現場実習は、昨年より多い11名が参加した。2学年でも就業体験の推奨をしており、現場実習の参加人数を本年度より多くしたい。 今年度は高校生ものづくりコンテスト(県大会)で銀賞を獲得した生徒がいるが、来年度は金賞を目指して指導していきたい。 工業関連の資格の取得を推進しているが、その中でも特に専門教科に関連する2級建築施工管理技術検定(学科試験)の指導に重点を置きたい。
		実習や製図等で出たゴミを分別収集し、授業終了時には使用した材料の片付けや用具等の整理整頓をさせる。①	B	
	個々の生徒に対応した学習指導計画の充実を図る	生徒が興味を持って取り組めるような教材の作成や授業内容を工夫し、生徒が理解しやすい授業に心がける。⑤⑦	A	
		毎年2月上旬に実施している標準テスト(構造・構造設計)に照準を合わせ、試験日を見据えた学習計画を立て、基礎学力を向上させる。⑤⑦	B	
	個々の生徒に対応した進路指導の充実	科の職員の役割分担を明確にして、工業関連の資格(計算技術検定・情報技術検定・レタリング検定・トレース検定・CAD検定・基礎製図検定等)の取得を推進し、昨年以上の結果を目指す。⑧	A	
		進路指導部と各学年と連携し、就職試験等の面接練習やインターンシップを実施して、各生徒の希望進路の実現を図る。⑫	A	
		2年次の建設現場実習や建設現場見学、木材製材関連施設における見学会、1年次の会社見学会などを通して、建築に関する知識や技術等の理解を深め職業観の育成と専門教科に対する学習意欲の向上を図る。⑪	A	
	科におけるエコスクールとしての取組	実習・製図の授業や課外を実施する際、必要のない電灯を消すなどエコスクールとしての自覚を持つ。⑰	B	
ゴミを分別収集して、別の用途に再利用できるものは選別して利用することにより、環境対策技術の習得を図る。⑰		A		

※評価基準 A:よくできた B:普通 C:やや不足 D:不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	授業時間の確保	授業終始時間の厳守(ベル席運動の徹底)と行事の効率化により授業時間の確保に努める。⑥	A	B 相変わらず寒くなると遅刻者が多くなる。欠課時数を多く抱える生徒は、遅刻が多い。時間を守るという基本的な生活習慣の確立が望まれる。 授業時間のアンバランスをなくすように努力してきたが、不十分であった。年度当初の曜日変更で不十分な場合は、学期毎の変更も必要である。 シラバスを作成しているが、生徒の利用の工夫が臨まれる。また、シラバスの作成においては、学習指導部の方が良いのではないかと、今後、学習指導部との検討が必要である。
		行事の計画的な配置、曜日変更により授業時間数のアンバランスを解消する。⑥	B	
	生徒の学力向上	学習指導部と協力し生徒が主体の「学びの共同体」の推進を図る。⑤	B	
	開かれた学校づくり	学校案内、工科だより等を作成し、中学校や保護者に配布し、生徒の活躍の様子を幅広くPRする。また、HPにより積極的に情報発信をする。⑭⑮⑯	A	
	新教育課程を踏まえた教育課程の作成	体験学習・学校公開・中学校訪問を充実させ、本校の特色を積極的にPRする。⑭⑮⑯ 本校の将来像を見据えた、新教育課程の検討・作成をする。⑲⑳	A B	
特別活動	学校行事や生徒会活動を通して学校への誇りと帰属意識を高める	生徒会を主体とした学校行事の企画・運営を行う。④	B	B 野球応援の在り方について考え直す必要がある。 次年度は文化祭の年ではなくスポーツフェスティバルの年である。実施が6月の予定なので早めの計画立案をしたい。
		各種委員会の年間目標を立て継続的に活動を行う。①④⑰	B	
	生徒間の協調性を養う	各行事を通して、責任感・達成感を体験させ、クラスや学校内の連帯意識を培う。①②④	B	
生徒指導	学校生活における安全確保	貴重品及び自転車等について管理・施錠の指導を図る。①	B	B 教室内および自転車について鍵がかかっているにもかかわらず盗難等が発生してしまった。 各HRにおける再三の指導や警察への被害届の提出などにより、全体として減少しつつあるように感じられる。 次年度はさらに巡回指導、施錠の徹底をはかるとともに、盗難等が起らないような指導方法(不必要な用具、ゲーム機等の持ち込み規制)について検討したい。 髪型・服装等の指導において学年での指導を中心に各学期および毎月毎に定期的にも実施した。一部に再三の注意にもかかわらず改善が見られない生徒が、毎年の課題として根強い指導の徹底が必要である。
		各種講演会等を実施し、事件・事故に関する注意喚起と予防を図る。①	B	
		校内・外の巡回の実施による問題行動等の未然防止に努める。①	B	
		学期毎に自転車点検を実施し、登録番号、施錠状態を確認する。①	B	
	高校生さわやかマナーアップの実践	朝の立哨指導における服装・頭髪、遅刻指導を実施する。①	B	
		毎月初めに服装頭髪検査を実施する。①	B	
		服装の改善等について全保護者へ通知する。⑭⑮ PTA総会、三者面談時等において保護者への協力を依頼する。⑭⑮	B A	
学習指導	学習指導方法の改善	「学びの共同体」を取り入れるにあたっての、調査・研究を行う。⑤	A	B 進学希望者向けの学習課外を計画的に行えるようにしたい。 学力調査模試を全学年で実施(予算計上済み)したい。 「学びの共同体」の研究発展に努める。
		先進校視察、及び校内研修会を実施する。⑤	A	
	基礎学力の向上	学力増進へ向けての課外授業の企画・運営を行う。⑦⑪⑬	C	
		「朝の学習」等の企画・運営を行う。⑦⑪⑬	B	
	検定試験の企画・運営	希望進路に合わせた模擬試験の企画・運営を行う。⑦⑪⑬ 工業各科、学年と連携して、計算技術・情報技術の各検定の運営をスムーズに行う。⑨⑪	B A	

※評価基準 A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
図書 視聴覚	図書室の整理・美化	図書委員を主体に，図書室の季節の飾り付けを行ったり，書籍やテーブルなどのより使いやすい配置を検討する。 ①④⑩⑪	B	図書室の生徒利用の促進は，なかなか困難であるが，生徒の興味関心に合わせた書籍を「学級文庫」として各クラスに配した。内容をさらに充実させていきたい。 図書のパソコンによる管理は，蔵書データと生徒・職員識別データを年度内に作成し，新年度から稼働させる予定である。 委員会活動は，先生方の指導により定期的に活動できるようになってきた。生徒作成の図書借りなどをインターネット上からも閲覧できるようにする予定である。 地デジテレビは活用法をアピールしていきたい。
		図書のバーコード管理に取りかかり，数年での実現を目指す。 ④⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬	B	
	生徒・職員の購入希望図書の把握と購入	各科の先生方に，専門的に役立ち，興味を引く図書の選定をお願いし，図書の充実を図る。 ④⑦⑧⑨⑩⑫⑬	B	
	委員会活動の活性化	図書だよりの作成を委員会でするようにしていきたい。定期的な活動をし，その中で活動テーマを見つけていきたい。 ①④⑩	A	
		放送委員会は，生徒行事の放送機器のセッティングなどに中心となって活躍できるように指導していく。 ①④⑩	A	
視聴覚室の整備	地デジテレビの活用を検討し，視聴覚室が先生方に有効に使われるようにする。 ④⑦⑩	B		
進路指導	キャリア教育の充実	進路学習の充実に努める。 ⑩⑫ ・各学年，各部，各教科と連携を図りながら，生徒の主体的な進路選択を援助するための各種行事を実施する。 (進路講演会・説明会，進路報告会，進路面談，適性検査，模擬試験等)	A	生徒を取り巻く社会環境において様々な情報があふれており，自分の将来に対しどのような情報を選択していったらよいかを一緒に考える姿勢，体制がますます必要になってくる。 そのために，生徒の進路に対する具体的な要望，何を考えているのかを早い時期から，リアルタイムに把握しておく必要があるため，学年との情報交換を定期的にする必要がある。
		進路情報の収集，効率的な整理，活用に努める。 ⑩⑪ ・進路資料室や掲示板を有効活用する。 ・昨年度に引き続き「進路の手引き」を発行する。	A	
		キャリア教育としてのインターンシップを計画し，実施する。 ⑪	A	
	進路希望の実現	企業学校間の連携を緊密に保ち，安定した求人数を確保する。 ⑪⑫⑬	B	
		的確な就職情報の提供ときめ細かな指導を通して，幹旋就職希望者全員の内定を獲得する。 ⑫⑬	A	
全国模試による客観的データと的確な進学情報の提供，きめ細かな指導を通して，個々の生徒が適切な学校選択ができるよう支援する。 ⑫⑬	B			

※評価基準 A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
環境厚生	舎内・舎外の清掃の徹底	毎日の舎内清掃を重視し、学習環境を整える。また、「ゴミの分別収集や軽量化」を徹底させる。 ①②⑬	C	B	日頃からの清掃の徹底には、①設備や用具の充実②マナーやモラルなどの意識の改革が必要である。そのためには、学年や関連する他の分署と連携を図る。
		整備委員会の活動を活発化させ、学校全体としての美化意識を高める。 ①④	B		
		学期に一度の大掃除(ワックス塗布を含む)と、舎外清掃を行う。 ①②④	A		
		清掃用具を充実させ、補充の申し出にすぐに対応できるようにする。 ①	B		
	「健康づくり」の推進	各種の検診や検査を通して個人の健康状態を知らせると共に、健康についての意志決定や行動選択ができるようにする。保健便りの作成。 ①④	A		
		保健室利用の多い生徒に対して(特に内科的・カウンセリング等を必要とする者)担任や養護教諭・教育相談部と連携を図り、その対応にあたる。 ③	B		
		保健講話の企画を立案し、生徒に対して的確な保健・健康指導を行う。 ④	A		
	安全管理・安全教育の推進	消防計画を立案して、火元責任者を明確にしその管理徹底を図る。 ⑭⑯	B		
		各科へ安全点検を呼びかけて、学校環境の安全の確保に努める。 ⑭	B		
		防災避難訓練の実施と災害時の対応等、安全に関する指導を行う。 ①⑭	A		
		教室等の消灯やストーブの消火など、省エネに努めさせる。 ⑰⑱	C		
	渉外	P T A活動の活性化	P T A総会への参加呼びかけをはじめ、広報活動や各種の研修等を積極的に企画し実施する。 ⑮⑯		
情報管理	I T技術を利用した授業の推進	教育情報ネットワークの有効利用を図る。 ⑥⑧⑱	B	A	本年度は県立学校情報高度化事業によりホームページ運用支援員から学校ホームページの運用について指導をいただいた。また、ホームページの運用に関する資料も作成できた。次年度以降はこの資料をもとにして、ホームページの作成をしていきたい。
		定期的な研修を実施し、職員のI C Tスキルアップに貢献する。 ⑧⑮	B		
	公式サイトによる情報公開の推進	公式サイトの作成を各部署に分散し、サイトを組織的に運営する。 ⑮⑯	A		
		公式サイトの更新回数を増やし、情報公開に努める。 ⑭⑮⑯	A		
	成績管理システムの維持管理の充実	成績管理システムの円滑な運営ができるよう計画し実施する。 ⑭⑮	B		
		資格・検定の管理や統計処理を行う。 ⑨⑭⑮	A		
校内LANの整備とその運用の活性化	情報機器の整備やLANの管理による、ネットワークの有効利用を図る。 ⑧	A			
	個人情報保護やウイルス対策など、セキュリティ対策を実施する。 ⑭⑮⑯	A			

※評価基準 A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題			
教育相談	生徒援助	ピアルームを活用し、生徒との関わりを持つようにする。 ③	B	A	スクールカウンセラーの定期派遣を引き続き要望していきたい。 生徒の多様化に伴い、教職員の対応方法が課題でもあるので、教職員のコンサルテーションとして、スクールカウンセラーの活用を図ってきたい。		
		カウンセラー等の協力を得て、援助活動にあたる。 ③	A				
		担任や教科担当者と情報交換を密にし、生徒の状況把握に努める。 ③	A				
		問題のある生徒については、保護者との連絡を密にし、対応する。 ⑮	A				
		広報誌(ピアルームプレス)を定期的に発行する。 ③	A				
	支援者援助	スクールカウンセラー等の協力を得て、研修会を企画する。 ③	B				
		外部団体等主催の教育相談研修会に参加し研鑽を積む。 ③	B				
第1学年	生徒理解に努める生徒指導の推進を図る	HR活動・道徳を通して生徒理解に努める。 ①②	A			B	次年度より多くの学年便りを発行して、生徒や学校行事などの様子を配信することについて充実を図る。 エコスクールとしての生徒への意識付けと取組を充実させる。 2年生2学期末までに、進むべき進路を決定できるよう指導し、3学期からは進路実現のための特別指導を実施する。
		服装頭髪指導やHR活動・道徳を通して、基本的な生活習慣を確立させ、マナーや規範意識を身につけさせる。 ①②⑩⑪⑫	B				
	生徒の基礎学力・資格取得合格率の向上に努める	基礎学力を身に付けさせるための学習活動を充実させる。 ⑤⑥⑦	B				
		資格取得の積極的な取得を促すとともに、合格できるよう支援する。 ⑦⑧⑨	A				
	エコスクールへの取組	環境を意識した技術者としての基礎・基本を身につけさせる。 ⑦⑰⑱	C				
		エコスクールとしての活動について積極的な働きかけを行う。 ①②⑱	C				
	保護者との連携を図る	保護者との連絡を密にし、生徒の状況について共通理解を図る。 ①⑭⑮	B				
		学年だより等を通して、保護者への積極的な情報公開に努める。 ⑭⑮⑯	C				
	進路実現のための取組	面談を通して生徒理解に努め、早い段階で進路について考えさせる。 ⑭⑮⑯	A				
		各学期に進路講演会やガイダンスを実施し、生徒への動機付けを行う ⑩⑪⑫⑬	A				
第2学年	基本的な生活習慣の確立	服装・頭髪等の身だしなみに注意し、制服の正しい着用について指導する。 ①	B	B	基礎学力向上のため、朝学期間以外でのSPIその他の指導をする。		
		家庭との連携を図り、学校生活が向上するよう指導する。 ①	B				
	学習意欲の向上	職業関連資格取得を中心とした資格取得の指導推進を図る。 ⑤⑦⑧⑨	B				
		普通教科(基礎学力)の成績向上のための学習指導の研究(朝学・夕学)に努める。 ⑦⑧	B				
	進路への意識向上	インターンシップ実施(H22年6月～)に向けての指導内容や方法について研究する。(進路ガイダンス、模擬試験の実施) ⑨⑩⑪⑫⑬	A				
	家庭との連絡	学年便りの発行、家庭との連携を密にする。 ⑭⑮⑯	B				
	修学旅行を実践して出来る学習の研究	修学旅行に向けて集団行動の意義について自覚を持たせる。 ①②④	B				
		広島での平和学習を通して、平和教育を実践する。自ら計画し行動する自学自習の学習を実践する。 ①③④	B				

※評価基準 A:よくできた B:普通 C:やや不足 D:不足

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
第3学年	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣を確立し、規範意識やマナーを身に付けさせる。進路に向けて外部でのマナーアップを指導する。①	B	B 本学年になり昨年度のインターンシップの経験が本年度の進路選択や方向転換の参考になった生徒が多くいた。担任と副担任の協力のもと生徒に進路指導の成果が出たことは良かったと思う。 1学年入学時から指導してきた皆勤賞の取得については、全体のクラスから皆勤者を出すことができ、長い間の目標として成果が出せた。 放課後や朝会前の学習を学年独自で取り組むことにより、自己の実力診断や学力アップを図ることができたが、更により上のレベルに取り組む方法もあったかと思う。 学年便りに関しては他の執務や行事により取り組む余裕が無かった事は反省点である。
		家庭との連絡を密に取り、遅刻を最小限にする。皆勤を継続させる自己意識の指導、皆勤の増加を意識づけをし、指導する。①⑭	A	
	意欲的な学習態度の育成	帰りの学習を学年独自で推進しSPI、就職問題の活用による進路対策を考えさせ自らの学習意欲を高め、自ら進路実現のための学習する習慣を身に付けさせる。⑤⑦	A	
		資格取得の推進を図り、より専門的な資格取得を図る。⑧⑨	B	
	希望進路の実現	生徒の個性・特性に応じた進路指導に努める為に率先して自ら進路を選択出来る環境を作る為の準備指導に努める。⑩⑪⑬	A	
		面談・ホームルームを通して、進路に対する意識を高め希望を実現するための方策を自ら考えさせ、自己を向上させる。⑪⑫⑬	A	
家庭との連絡を密にし保護者との連携の強化	学年教育活動(進路活動)を紹介した「学年だより・進路便り」の発行に努める。⑭⑮	C		

※評価基準 A：よくできた B：普通 C：やや不足 D：不足